

標高の違いによるチャノコカクモンハマキの発生量の差							
<p>〔要約〕 茶の三大害虫の一つであるチャノコカクモンハマキは、標高が高いほど発生量が少なく、茶園での密度も低い。農薬の散布による幼虫密度の低下は発生量の多い低標高地では認められたが、発生量の少ない高標高地では認められない。</p>							
八女分場・栽培研究室					連絡先	0943-42-0292	
部会名	農産	専門	作物虫害	対象	工芸作物類	分類	指導

〔背景・ねらい〕

茶の栽培地は平坦地から高標高地にわたっており、病虫害の発生実態も標高差によって異なっていると思われるが、防除は慣行的に一律に実施しているのが現状である。そこで、茶の代表的な害虫であるチャノコカクモンハマキの発生実態と標高の関係について調査し、減農薬栽培推進のための効率的な病虫害防除の可能性を検討するための資料を得る。

〔成果の内容・特徴〕

- ①フェロモントラップによる5～9月の誘殺頭数調査によると、チャノコカクモンハマキの雄成虫の発生は、標高が高い（150m以上）ほど少なくなり、明かに標高差が認められる（表1）。
- ②チャノコカクモンハマキの幼虫密度は、標高が低い地域では防除回数が少ない（無～慣行の1/2）と慣行防除より高くなるが、標高が高い地域では発生量が少なく、防除回数の多少による差は認められない（表2）。

〔成果の活用面・留意点〕

チャノコカクモンハマキの発生生態の資料として茶防除基準に登載し、高標高地域の減農薬栽培を指導する。ただし、農薬の選定に当たっては他病虫害の発生に注意する。

[具体的データ]

表1 フェロモントラップによるチャノコカクモンハマキ雄成虫の年間誘殺数
(平成3年)

標高	50m	100m	150m	200m	400m
慣行防除 (指数)	3,850 (100)	2,829 (73)	1,832 (48)	1,966 (51)	1,926 (50)
省防除 (指数)	4,013 (104)	-	-	-	2,251 (58)

- 注) ① 数字は各標高地1ヶ所のフェロモントラップによる5月～9月の総誘殺頭数。
 ② (指数)は、標高50mの慣行防除園に対する指数。
 ③ 慣行防除は6～10回散布、省防除は無～4回防除。

表2 チャノコカクモンハマキの世代別幼虫密度 (平成4年)

標高	防除	第2世代	第3世代	第4世代	平均
50m	慣行	10.4	7.4	3.5	7.1
"	省	19.7	13.0	7.2	13.3
400m	慣行	2.2	6.3	2.2	3.9
"	省	2.4	5.1	2.2	3.2

- 注) ① 調査は第2世代が7月17日、第3世代が8月21日
 第4世代が9月24日に実施した。
 ② 単位は頭/m²である。

[その他]

研究課題名：無・省農薬栽培における茶園生態系の解明

予算区分：経常

研究期間：平成4年度(平成3～4年)

研究担当者：杉山喜直、大賀康之、久保田 朗

発表論文等：平成3～4年度八女分場試験成績書